

小・中・高等学校を通じて一貫した目標設定の在り方について

改訂版(案)

※CEFRとは、シラバスやカリキュラムの手引きの作成、学習指導教材の編集のために、透明性が高く分かりやすく参照できるものとして、20年以上にわたる研究を経て、2001年に欧州評議会(Council of Europe)が発表。

英語教育の抜本的強化のイメージ (秋以降、専門的に検討予定)

※具体的な小学校の授業時数については、年内~年明けを目的に教育課程全体の構成とともに検討を進め、一定の方向性を提示

新たな英語教育

大学や海外、社会で英語力を伸ばす基盤を確実に育成

成熟社会にふさわしい我が国の価値を海外展開したり、厳しい交渉を勝ち抜く人材の育成

高校卒業レベルで3000語

高で1800語

中で1200語

現状

【高等学校】

- 目標:コミュニケーション能力を養う
- 授業は英語で行うことが基本

国の目標(英検準2~2級程度等50%) →現状32%

- ・生徒の学習意欲、「書く」「話す」に課題
- ・言語活動が十分でない

【中学校】

教科型を通じた4技能の総合的育成

- 目標:コミュニケーション能力の基礎を養う
- 前回改訂で週3→週4に増

国の目標(英検3級程度等50%) →現状35%

- ・言語活動が十分でない

【小学校高学年】

活動型

- 目標:「聞く」「話す」を中心としたコミュニケーション能力の素地を養う
- 学級担任を中心に指導

外国語活動が成果を上げ、児童の「読む」「書く」も含めた系統的な学習への知的欲求が高まっている状況

【高等学校】

目標例:例えば、ある程度の長さの新聞記事を速読して必要な情報を取り出したり、社会的な問題や時事問題など幅広い話題について課題研究したことを発表・議論したりすることができるようにする

- 授業を英語で行うことを基本とするとともに、①4技能を総合的に扱う言語活動、②特に、課題がある「話すこと」、「書くこと」において発信力を強化する言語活動を充実
- 幅広い話題について情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現、伝えたりする能力、他者を尊重しながら発表、討論・議論、交渉等ができるコミュニケーション能力を養う

【中学校】

目標例:例えば、短い新聞記事を読んだり、テレビのニュースを見たりして、その概要を伝えることができるようにする

- 互いの考えや気持ちなどを英語で伝え合う対話的な言語活動を重視した授業を英語で行うことを基本とする
- 他者を尊重し、より具体的に身近な話題について理解や表現、簡単な情報交換ができるコミュニケーション能力を養う。

年間140単位時間

教科型

【小学校高学年】 【小学校】

目標例:例えば、馴染みのある定型表現を使って、自分の好きなものや、家族、一日の生活などについて、友達に質問したり質問に答えたりできるようにする

- 相手意識をもって聞いたり話したりすることに加えて、読んだり書いたりすることについての態度の育成も含めた、コミュニケーション能力の基礎を養う。
- 学級担任が専門性を高め指導、併せて専科指導を行う教員を活用、ALT等を一層積極的に活用

教科として系統的に学ぶため、効果的な「繰り返し学習」としてモジュール学習も活用

年間70単位時間 ※

活動型

【小学校中学年】

- 目標:相手意識を持って聞いたり話したりすることを中心としたコミュニケーション能力の素地を養う
- 主に学級担任がALT等を一層積極的に活用したT・Tを中心とした指導

年間35単位時間 ※



小・中・高を通じた目標及び内容の主なイメージ

		小学校		中学校		高等学校	
		中学年	高学年	中学校		高等学校	
教科等の目標	改善例	外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、外国語の音声等に慣れ親しませながら、 相手意識を持った コミュニケーション能力の素地を養う。 <ポイント> ・言語や文化についての体験的理解 ・積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度 ・コミュニケーション能力の素地	外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、身近で簡単なことについての外国語の基本的な表現に関わって聞くことや話すことなどの 相手意識を持った コミュニケーション能力の基礎を養う。 <ポイント> ・身近で簡単なこと ・コミュニケーション能力の基礎	外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、 他者を尊重し、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図るとともに、身近な話題について、理解や表現、簡単な情報交換ができる コミュニケーション能力を養う。 <ポイント> ・身近な話題 ・理解、表現、情報交換できるコミュニケーション能力	外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、 他者を尊重し、聞き手・話し手・読み手・書き手に配慮しながら、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図るとともに、幅広い話題について、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする コミュニケーション能力を養う。 <ポイント> ・言語や文化についての理解 ・積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度 ・幅広い話題 ・情報や考えなどを的確に理解し適切に伝えるコミュニケーション能力		
	現行		外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力の素地を養う。	外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力の基礎を養う。	外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図るとともに、科目ごとに養うコミュニケーション能力を設定する。 <基礎科目(選択科目)> ○ 身近な話題について 、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことができるようにする。 <必修科目> ○ 日常的话题や自分の関心のある分野について 、情報や考えなどを、的確に理解したり英語話者が理解できる程度の英語を用いて適切に伝えたりすることができるようにする。 <選択科目> ○ 時事的话题や社会問題などについて 、情報や考えなどを、的確に理解したり英語話者が理解できる程度の英語を用いてある程度流暢に伝えたりすることができるようにする。 ○ 時事的话题や社会問題などについて 、情報や考えなどを、的確に理解したり英語話者が理解できる程度の英語を用いてある程度流暢に伝えたりする能力を更に伸ばし、社会生活において活用できるようにする。 ○ 日常的话题や自分の関心のある分野について 、スピーチやプレゼンテーション等の場面において、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりすることができるようにする。 ○ 時事的话题や社会問題などについて 、ディベートやディスカッション等の場面において、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりすることができるようにする。 ○海外での生活に必要な基本的な表現を使って、幅広い話題について会話することができるようにする。 <ポイント> ・身近な話題(基礎科目) ⇒ 日常的话题や関心のある分野(必修科目) ⇒ 時事的话题や社会問題など(選択科目) ・4技能の基礎的な能力(基礎科目) ⇒ 的確に理解し、適切に伝える能力(必修科目及び選択科目) ・英語話者が理解できる程度の英語(必修科目) ⇒ 英語話者が理解できる程度の英語+ある程度の流暢さ(選択科目) ・情報や考えなどのやりとり:スピーチやプレゼンテーション等 ⇒ ディベートやディスカッション等		
1 目標	改善例	4 技能に係る目標(例)(話す) <イメージ案>					
		「話すこと」(発表) Spoken Production 【SP】 【SP1】自分の考えや気持ち、事実などを、聞き手を意識しながら 初歩的な英語 で伝えることができるようにする。 【SP2】与えられたテーマについて 初歩的な英語 で簡単なスピーチをすることができるようにする。 <ポイント> ・相手意識 ・初歩的な英語	「話すこと」(やりとり) Spoken Interaction 【SI】 ○聞いたことに相づちをうったり、感想を言ったりすることができるようにする。	「話すこと」(発表) Spoken Production 【SP】 【SP1】自分の考えや気持ち、事実などを、聞き手を意識しながら 英語 で伝えることができるようにする。 【SP2】自分の意見や主張を基に、与えられたテーマについて短いスピーチをすることができるようにする。	「話すこと」(やりとり) Spoken Interaction 【SI】 ○聞いたり読んだりしたことなどについてほかの人と話し合い、理解したことを確認したり、意見を伝え合ったりすることができるようにする。	「話すこと」(発表) Spoken Production 【SP】 ○<必修科目> 日常的话题や自分の関心のある分野について、英語話者が理解できる程度の英語を用いて、 【SP1】情報や考えなどを適切に伝えることができるようにする。 【SP2】要点を整理し、関連情報や具体例などを付け加えながら、まとまった内容のスピーチをすることができるようにする。 【SP3】要点を整理し、関連情報や具体例などを付け加えながら、まとまった内容のプレゼンテーションをすることができるようにする。 ○<選択科目> 抽象的な内容を含む幅広い話題について、英語話者が理解できる程度の英語を用いてある程度流暢に、 【SP4】情報や考えなどを適切に発表することができるようにする。 【SP5】要点を整理し、関連情報や具体例などを付け加えながら、論理的な構成のスピーチをすることができるようにする。 【SP6】要点を整理し、関連情報や具体例などを付け加えながら論理的な構成のプレゼンテーションをすることができるようにする。	「話すこと」(やりとり) Spoken Interaction 【SI】 ○<必修科目> 日常的话题や自分の関心のある分野について、英語話者が理解できる程度の英語を用いて、 【SI1】情報や考えなどを伝え合ったり相手の発話に適切に反応することができるようにする。 【SI2】簡単なディベートをすることができるようにする。 【SI3】簡単なディスカッションをすることができるようにする。 ○<選択科目> 抽象的な内容を含む幅広い話題について、英語話者が理解できる程度の英語を用いてある程度流暢に、 【SI4】情報や考えなどを伝え合ったり相手の発話に適切に反応することができるようにする。 【SI5】ディベートをすることができるようにする。 【SI6】問題解決型のディスカッションをすることができるようにする。
		<ポイント> ・伝える ⇒ スピーチをする ⇒ プレゼンテーションをする ・伝え合う/相手の発話に反応する ⇒ ディベートをする ⇒ ディスカッションをする					
				(1) 初歩的な英語を聞いて話し手の意向などを理解できるようにする。 (2) 初歩的な英語を用いて自分の考えなどを話すことができるようにする。 (3) 英語を読むことに慣れ親しみ、初歩的な英語を読んで書き手の意向などを理解できるようにする。 (4) 英語で書くことに慣れ親しみ、初歩的な英語を用いて自分の考えなどを書くことができるようにする。	<「コミュニケーション英語 I」(必修科目)> 英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする基礎的な能力を養う。		

小・中・高を通じた目標及び内容の主なイメージ

		小学校	中学校	高等学校
		小学年	高学年	
2 内容	改善例	<p>○言語活動 英語を理解し、英語で表現する能力を養うため、次の言語活動を2学年間を通して行わせる。 「聞く」「話す」については、 ・基本的な英語の音声に慣れ、身の回りの話いや場面の中での表現を聞き取り、状況から判断して適切に応じること。自分の考えや気持ちなどを英語やジェスチャーを使って、聞き手がわかるように話すこと。 「読む」「書く」については、 ・文字や符号を識別し、正しく読むこと ・単語を識別すること ・文字を識別し、正しく書くこと ・単語を識別し、正しく書き写すこと</p> <p>○言語活動の取扱い (1)2学年を通じ指導に当たっては、次のような点に配慮するものとする。 (2)児童の学習段階を考慮して各学年の指導に当たっては、次のような点に配慮するものとする。 第5学年における言語活動 第6学年における言語活動</p> <p>○言語材料の取扱い ・外国語活動で扱った。表現等を繰り返し扱う。その際、外国語活動と異なる場面で活用するなど、スパイラルに何度も扱うことに留意する。</p> <p><ポイント> ・積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度 ・言語や文化についての体験的理解</p>	<p>○言語活動 「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能について言及 →英語を理解し、英語で表現できる実践的な運用能力を養うため、次の言語活動を3学年間を通して行わせる。</p> <p>○言語活動の取扱い 「内容に踏み込んだ言語活動を重視」することに言及</p> <p>○言語材料の取扱い →小学校で扱った語、表現等は、中学校においても繰り返し扱う。その際、小学校とは異なる場面で使ったり、別の意味で活用したりするなど、スパイラルに何度も扱い直すことに留意する。</p> <p><ポイント> ・4技能のバランスよい育成 ・内容に踏み込んだ言語活動</p>	<p>第2款の第1から第4に示すリスニング、スピーキング、リーディング及びライティングの各技能に係る目標を達成するため、生徒が情報や考えなどを理解したり伝えたりすることを実践するように具体的な言語の使用場面を設定して、言語活動を英語で行う。 (必履修科目の例) ○言語活動 ・事物に関する紹介や対話などを聞いて、情報や考えなどを整理したり、概要や要点をとらえたりする。 ・説明や物語を読んで、情報や考えなどを整理したり、概要や要点をとらえたりする。また、聞き手に伝わるように音読する。 ・日常的な話題や自分の関心のある分野について、まとまった内容のスピーチやプレゼンテーションをしたり、簡単なディベートやディスカッションをしたりする。 ・聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて簡潔に書く。 ○言語活動を効果的に行うための配慮事項 ・リズムやイントネーションなどの英語の音声的な特徴、話す速度、声の大きさなどに注意しながら聞いたり話したりすること。 ・要点を整理し、関連情報や具体例などを付け加えながら、聞き手が理解しやすいように話すこと。 ・内容の要点を示す語句や文、つながりを示す語句などに注意しながら読んだり書いたりすること。 ・事実と意見などを区別して、理解したり伝えたりすること。 ○内容の取扱い ・小学校におけるコミュニケーション能力の基礎及び中学校におけるコミュニケーション能力を養うための総合的な指導を踏まえ、聞いたことや読んだことを踏まえた上で話したり書いたりする言語活動を適切に取り入れながら、四つの領域の言語活動を有機的に関連付けつつ総合的に指導するものとする。 ・生徒の実態に応じて、多様な場面における言語活動を体験させながら、中学校や高等学校における学習内容を繰り返して指導し定着を図るよう配慮するものとする。</p> <p><ポイント> ・4技能のバランスよい育成 ・言語活動の高度化(発表、討論、交渉など)</p>
	現行	<p>1.外国語を用いて積極的にコミュニケーションを図ることができるよう、次の事項について指導する。 (1) 外国語を用いてコミュニケーションを図る楽しさを体験すること。 (2) 積極的に外国語を聞いたり、話したりすること。 (3) 言語を用いてコミュニケーションを図ることの大切さを知ること。 2.日本と外国の言語や文化について、体験的に理解を深めることができるよう、次の事項について指導する。 (1) 外国語の音声やリズムなどに慣れ親しむとともに、日本語との違いを知り、言葉の面白さや豊かさ気付くこと。 (2) 日本と外国との生活、習慣、行事などの違いを知り、多様なものの見方や考え方があることに気付くこと。 (3) 異なる文化をもつ人々との交流等を体験し、文化等に対する理解を深めること。</p>	<p>(1) 言語活動 (2) 言語活動の取扱い 3学年を通じた指導に当たっては、次のような点に配慮するものとする。 ・互いの考えや気持ちを伝え合う活動の設定 ・具体的な場面や状況に合った適切な表現を自ら考える ・取り上げる言語の使用場面や言語の働き ・生徒の学習段階を考慮して第1学年の指導に当たっては、次のような点に配慮するものとする。 外国語活動を通じて積極的な態度などの一定の素地が育成されることを踏まえる (3) 言語材料 (4) 言語材料の取扱い ・発音と綴りを関連づけた指導 ・文法と言語活動を効果的に関連付けた指導 ・日本語との違いに留意した指導</p>	<p>○「コミュニケーション英語基礎」、「コミュニケーション英語Ⅰ」、「コミュニケーション英語Ⅱ」、「コミュニケーション英語Ⅲ」、「英語表現Ⅰ」、「英語表現Ⅱ」及び「英語会話」 (1) 言語活動 (2) 言語活動を効果的に行うための配慮事項</p> <p>○英語に関する各科目に共通する内容等 1 英語に関する各科目の2の(1)に示す言語活動を行うに当たっては、例えば、次に示すような言語の使用場面や言語の働きの中から、各科目の目標を達成するのにふさわしいものを適宜取り上げ、有機的に組み合わせる。 [言語の使用場面の例]、[言語の働きの例] 2 英語に関する各科目の2の(1)に示す言語活動を行うに当たっては、中学校学習指導要領第2章第9節第2の2の(3)及び次に示す言語材料の中から、それぞれの科目の目標を達成するのにふさわしいものを適宜用いて行わせる。その際、「コミュニケーション英語Ⅰ」においては、言語活動と効果的に関連付けながら、ウに掲げるすべての事項を適切に取り扱うものとする。 ア 語、連語及び慣用表現 イ 文構造のうち、運用度の高いもの ウ 文法事項 3 2に示す言語材料を用いるに当たっては、次の事項に配慮するものとする。 ア 現代の標準的な英語 イ 文法は言語活動と効果的に関連付けて指導 ウ 語句や文構造、文法事項は実際に活用できるよう指導 4 英語に関する各科目については、その特質にかんがみ、生徒が英語に触れる機会を充実するとともに、授業を実際のコミュニケーションの場面とするため、授業は英語で行うことを基本とする。その際、生徒の理解の程度に応じた英語を用いるよう十分配慮するものとする。</p>
	改善例	<p>○高学年における外国語との関連に留意して、指導計画を適切に作成するものとする。 ○指導計画の作成に当たっては、次の事項に配慮するものとする。 ・英語を取り扱うことを原則 ・学年ごとの適切な目標設定 ・言語や文化に関する内容とコミュニケーションに関する内容と関連づけた指導 ・指導内容や活動の設定 ・学級担任等の役割、指導体制の充実 ・教材等 ・道徳の時間などとの関連</p> <p>2.第2の内容の取扱いについては、次の事項に配慮するものとする。 (1) 2学年間を通じ指導に当たっては、次のような点に配慮するものとする。 ・コミュニケーションの場面設定 ・アルファベットなどの文字や単語の取扱い ・言葉によらないコミュニケーションの手段 ・国語についての理解 ・コミュニケーションの場面やコミュニケーションの働き (2) 児童の学習段階を考慮して各学年の指導に当たっては、次のような点に配慮するものとする。 ・第3学年における活動 ・第4学年における活動</p> <p><ポイント> ・高学年外国語と関連した指導計画の作成</p>	<p>○中学校における外国語との関連に留意して、指導計画を適切に作成するものとする。 ○指導計画の作成に当たっては、次の事項に配慮するものとする。 ・英語を取り扱うことを原則 ・学年ごとの適切な目標設定 ・言語や文化に関する内容とコミュニケーションに関する内容と関連づけた指導 ・指導内容や活動の設定 等</p> <p>2.第2の内容の取扱いについては、次の事項に配慮するものとする。 (1) 2学年間を通じ指導に当たっては、次のような点に配慮するものとする。 ・コミュニケーションの場面設定 ・言葉によらないコミュニケーションの手段 ・国語や我が国の文化についての理解 ・コミュニケーションの場面やコミュニケーションの働き (2) 児童の学習段階を考慮して各学年の指導に当たっては、次のような点に配慮するものとする。 ・第5学年における活動 ・第6学年における活動</p> <p><ポイント> ・外国語活動を踏まえた指導計画の作成</p>	<p>○指導計画の作成に当たっては、次の事項に配慮するものとする。 ・1の目標に示す「4技能に係る目標」に基づき、各学校において学習到達目標を設定すること。 ・各学校においては、生徒や地域の実態に応じて、3学年間全体を見通した上で、学年ごとの学習到達目標を外国語を用いて何ができるようになるかという観点から定めること。 ・小学校における外国語活動と外国語及び中学校における外国語との関連に十分留意して、指導計画を適切に作成すること。 ・各科目の指導計画の作成に当たっては、各科目の目標や内容等に応じた指導や評価の方法について、学校で共通の体制を構築すること。 ・学校における学習が、生涯にわたって、自ら外国語を学び、実際にコミュニケーションの場面で使おうとする動機付けに結び付くものとなるようにすること。 ○言語材料を用いるに当たっては、次の事項に配慮するものとする。 ・コミュニケーションを行うために必要となる語句や文構造等の取扱いについては、用語や用法の区別などの指導が中心とならないよう配慮し、言語の使用場面や言語の働きに即して実際に活用できるようにすること。 ○英語に関する各科目については、その特質にかんがみ、生徒が英語に触れる機会を充実するとともに、授業を実際のコミュニケーションの場面とするため、授業は英語で行うことを基本とする。その際、生徒の理解の程度に応じた英語を用いるとともに、生徒の英語による言語活動が授業の中心となるよう十分配慮するものとする。 ○内容の取扱いに当たっては、次の事項に配慮するものとする。 ・辞書の活用の指導などを通じ、自ら積極的に外国語を学び、コミュニケーションの場面で使おうとする態度を育てるようにすること。 ・ペア・ワークやグループ・ワークなどを積極的に取り入れ、生徒が実際に外国語を用いてコミュニケーションを行う場面を十分確保すること。</p> <p><ポイント> ・「4技能に係る目標」に基づく各学校における学習到達目標の設定 ・外国語を用いて何ができるようになるかという観点からの学習到達目標の設定(3年間全体、各学年) ・小学校における外国語活動と外国語及び中学校における外国語と関連した指導計画の作成 ・指導及び評価における共通指導体制の構築 ・生涯にわたって外国語を学んでいく動機付けとしての学校における学習 ・言語の使用場面や言語の働きに即した言語材料の活用 ・英語で行うことを基本とする授業 ・生徒の英語による言語活動が中心の授業</p>
現行	<p>1.指導計画の作成に当たっては、次の事項に配慮するものとする。 ・英語を取り扱うことを原則 ・適切な目標設定 ・言語や文化に関する内容の指導とコミュニケーションに関する内容との関連 ・指導内容や活動の設定 等 2.第2の内容の取扱いについては、次の事項に配慮するものとする。 (1) 2学年間を通じ指導に当たっては、次のような点に配慮するものとする。 ア コミュニケーションの場面設定 イ アルファベットなどの文字や単語の取扱い ウ 言葉によらないコミュニケーションの手段 エ 国語や我が国の文化 オ コミュニケーションの場面やコミュニケーションの働き (2) 児童の学習段階を考慮して各学年の指導に当たっては、次のような点に配慮するものとする。 ア 第5学年における活動 イ 外国語を初めて学習することに配慮し、児童に身近で基本的な表現を使いながら、外国語に慣れ親しむ活動や児童の日常生活や学校生活にかかわる活動を中心に、友達とのかわりを大切にした体験的なコミュニケーション活動を行うようにすること。 イ 第6学年における活動 第5学年の学習を基礎として、友達とのかわりを大切にしながら、児童の日常生活や学校生活に加え、国際理解にかかわる交流等を含んだ体験的なコミュニケーション活動を行うようにすること。</p>	<p>1.小学校における外国語活動との関連に留意して、指導計画を適切に作成するものとする。 2.外国語科においては、英語を履修させることを原則とする。 3.第1章総則の第1の2及び第3章道徳の第1に示す道徳教育の目標に基づき、道徳の時間などとの関連を考慮しながら、第3章道徳の第2に示す内容について、外国語科の特質に応じて適切な指導をすること。</p>	<p>1 指導計画の作成に当たっては、次の事項に配慮するものとする。 (1)「コミュニケーション英語Ⅱ」は「コミュニケーション英語Ⅰ」を履修した後に、「コミュニケーション英語Ⅲ」は「コミュニケーション英語Ⅱ」を履修した後に、「英語表現Ⅱ」は「英語表現Ⅰ」を履修した後に履修させることを原則とすること。 (2)「コミュニケーション英語基礎」を履修させる場合、「コミュニケーション英語Ⅰ」は「コミュニケーション英語基礎」を履修した後に履修させることを原則とすること。 2 内容の取扱いに当たっては、次の事項に配慮するものとする。 (1)教材については、外国語を通してコミュニケーション能力を総合的に育成するため、各科目の目標に応じ、実際の言語の使用場面や言語の働きに十分配慮したものを取り上げるものとする。その際、その外国語を日常使用している人々を中心とする世界の人々及び日本人の日常生活、風俗習慣、物語、地理、歴史、伝統文化や自然科学などに関するものの中から、生徒の発達段階及び興味・関心に即して適切な題材を変化をもたせて取り上げるものとし、次の観点に留意する必要があること。 ア 多様なものの見方や考え方を理解し、公正な判断力を養い豊かな心情を育てるのに役立つこと。 イ 外国や我が国の生活や文化についての理解を深めるとともに、言語や文化に対する関心を高め、これらを尊重する態度を育てるのに役立つこと。 エ 広い視野から国際理解を深め、国際社会に生きる日本人としての自覚を高めるとともに、国際協調の精神を養うのに役立つこと。 ウ 人間、社会、自然などについての考えを深めるのに役立つこと。 (2) 音声指導の補助として、発音表記を用いて指導することができること。 (3) 辞書の活用の指導などを通じ、生涯にわたって、自ら外国語を学び、使おうとする積極的な態度を育てるようになること。 (4) 各科目の指導に当たっては、指導方法や指導体制を工夫し、ペア・ワーク、グループ・ワークなどを適宜取り入れ、視聴覚教材やコンピュータ、情報通信ネットワークなどを適宜指導に生かしたりすること。また、ネイティブ・スピーカーなどの協力を得て行うティーム・ティーチングなどの授業を積極的に取り入れ、生徒のコミュニケーション能力を育成するとともに、国際理解を深めるようにすること。</p>	